

産学官民が連携した獣害対策モデル へ

～捕獲、IoT活用、ジビエ、堆肥化、教育まで～



本日の流れとゴール

農家ハンター活動の背景とこれまで

ICTの役割とポテンシャル

都市と農村をつなぐ【ヒトモノカネ】

産学官民連携の可能性

事業化による持続化



活動のきっかけ

2016年2月15日 農家のおばちゃんの一言

道の駅での販売と おいしいの一言がやりがい



初のイノシシ被害

収穫直前のデコポンを
一晩にして食べられた

怖いから畑に行きたくない

これから何度も食べられると思うと
やる気もなくなってしまった



離農につながる現状



美味しい農産物の危機



農家ハンター活動のリーダー



農家ハンター 代表 宮川将人 (有)宮川洋蘭

熊本農業高校、東京農業大学卒 2004年アメリカ研修から帰り就農し洋蘭生産。ネット販売（森水木のラン屋さん）、6次産業化（ボトルフラワー）でも実績多数。
主な受賞歴 **日本でいちばん大切にしたい会社大賞、楽天市場「ショップオブザイヤー2018地域貢献賞」受賞、東京農大経営者大賞、地域未来けん引企業**
熊本県農業法人協会専務、熊本大学非常勤講師
目標：100人雇用、天皇賞、農家ハンターを全国普及
役割：組織運営全般、情報発信、発表、資料作成など
信条：返事はYESかハイ



プロジェクトリーダー 稲葉達也 稲葉農園

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー、さらに**鳥獣管理士2級の資格を持つ**。デコポンやブドウの家族経営を行いながらベテラン猟師×学者に学びながら約100基を超える箱罠を設置。そこで磨いた技術指導により農家ハンターメンバーが捕獲に成功している。ドローン撮影もプロ級の腕前。現場講習を担当し猟友会向け含め年間50講演を超える。
目標：半農半猟のモデルになる事
役割：現場技術の伝播、IoT機器の導入、笑顔
信条：頼まれ事は試されごと

急増している理由

温暖化と富栄養化による影響

作付け・収穫時期の変化
栄養価の高い【ひこばえ】

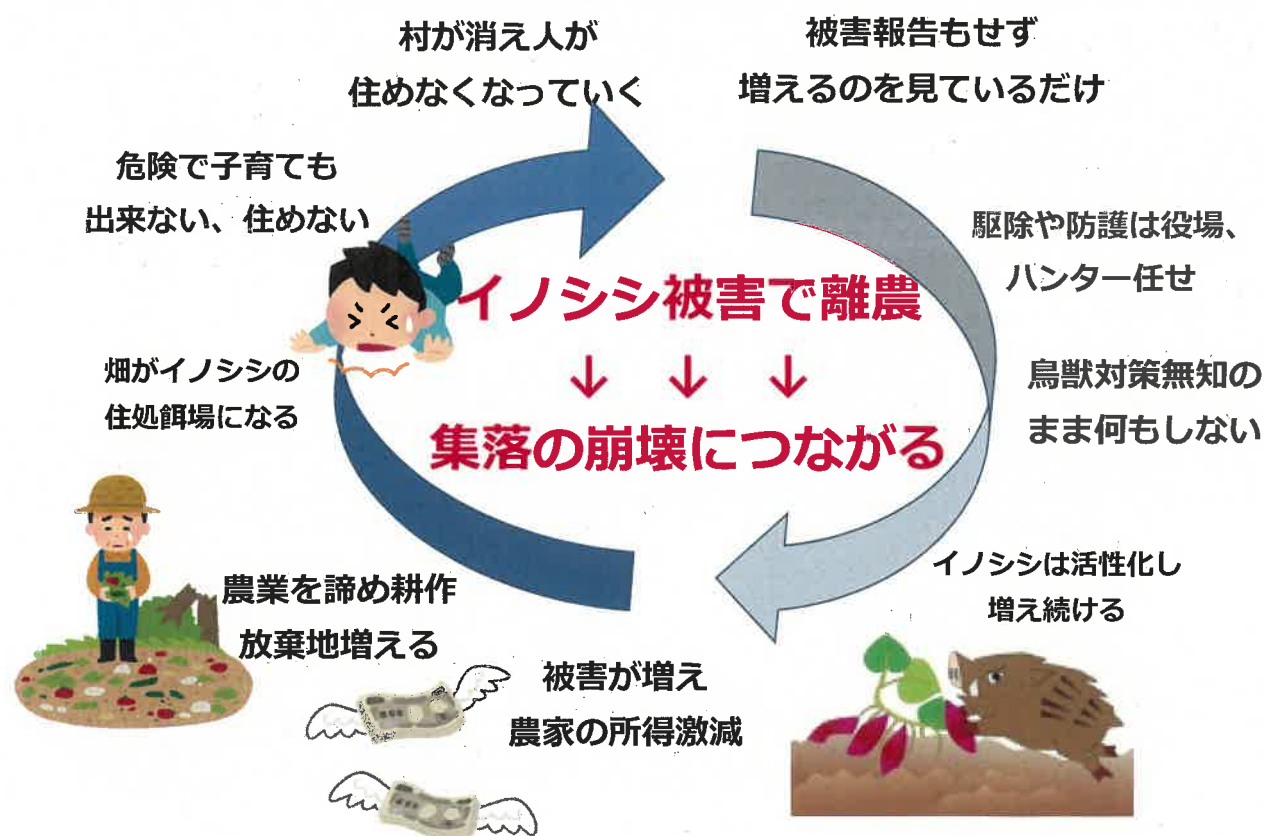


出産頭数も増えている

子が飢えずに冬を越せる



中山間地域で鹿やイノシシ被害が深刻な理由



2016年4月10日「イノシシを考える農家合宿」開催

農家ハンター キックオフミーティングのご案内

くまもと農業経営塾 2期生一瀬雄大 4期生宮川将人

お疲れ様です！いきなりですが、あなたの農園、あなたの地域はこんなことで困っていませんか。
鳥獣被害が年々ひどくなってきた。

イノシシがそこにいるのに退治できずにもどかしい。

電気柵を仕掛けてはいるけど、なぜか入って荒らされる。



今、熊本はもとより全国各地でこのような鳥獣害の被害拡大が、今
社会問題となっている中、それを減らす、食い止める、有効な手立ては見つかっていません。

そこでくまもと農業経営塾生で、ブラジルに派遣された一瀬雄大(イノシシ猟師歴13年)と、
宮川将人が発起人となり「自分たちの農地や地域は自分たちの手で守らなば！」
そんな思いで、若い農家が中心となった勉強・実習会を手探りで考えているところです。

猟といえば、猟銃、猟犬、箱罠、そして電気柵。そしていろんなイメージがあると思いますが、
伝統技法にITCやドローン活用を加えるなど、効率的に鳥獣被害を減らすための
熊本モデルを作り、鳥獣害に苦悩する地域や農家の人たちに広められないかと考えています。

年々増え続ける鳥獣被害。見ているだけではなく、微力でも自分たちが一歩を踏み出そう。
そんなことをみんなで夜通し、囲炉裏を囲みながら熱く語り合いたいと思って企画しました。
急な案内に加え、農作業も多忙な時期ですが、アツいあなたのご参加をお待ちしております。

会 場：肥後民家村 旧山野家 熊本県玉名郡和水町江田 302 駐車ICから車2分

参加費：一人3,000円(宿泊、飲食代込み)

日 時：2016年4月9日土曜日18時～4月10日夕方まで *部分参加も可能

18時～イノシシ等鳥獣被害の今をみんなでシェア

20時～地域を守るために私たちが出来ること！シンポジウム

古民家に宿泊(五右衛門風呂、囲炉裏付き)

翌朝8時～ハンター一瀬と猟犬とイノシシの住む森に行こう@和水町

11時～下山 玉名市イノセファームでイノシシ解体 → パーベキュー 15時解散

申込み/お問合せ先



若い農家25名
が参加 2016
年4月9～10日
@肥後民家村

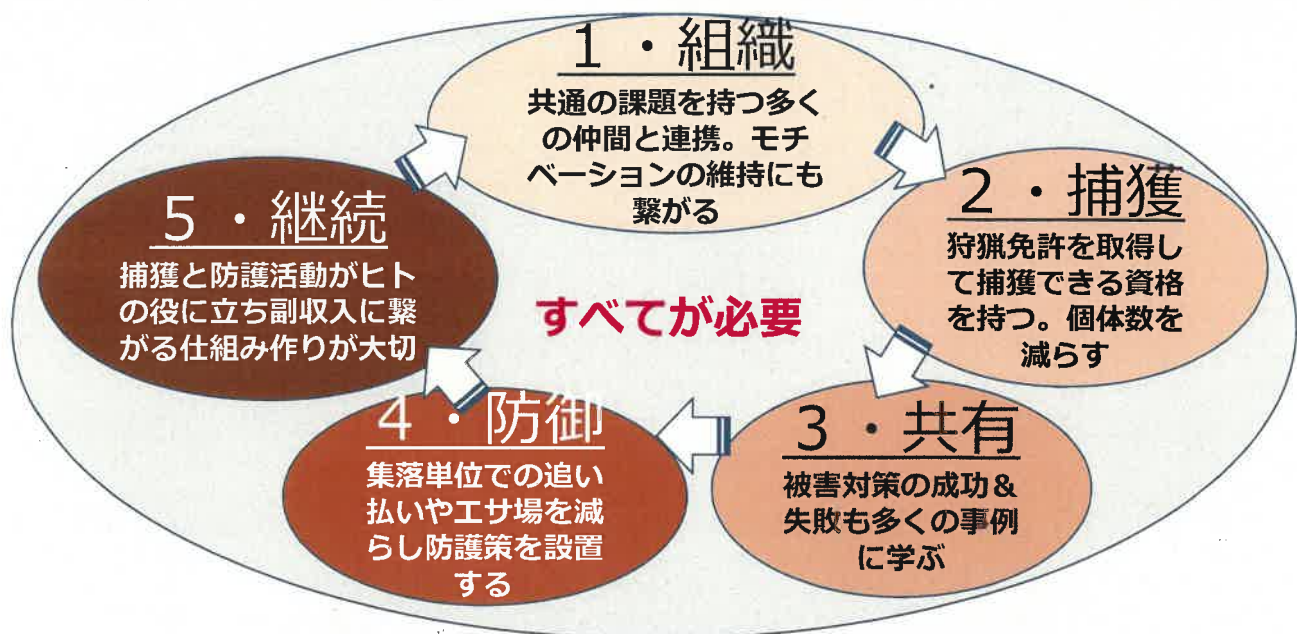
ジビエ料理の
試食会も



イノシシの被害が多い農地の視察、箱罠
の設置状況、GPS付猟犬のレクレーショ
ンなど



行き着いた答えは「農家が立ち上がるしかない！」



現在、全国各地で様々な取り組みが行われているが、
防御と捕獲を現場で行う「実施者：プレイヤー」が不足している。
そこで被害を受け、地域に根付いて動ける**若い農家ほど、**
鳥獣対策の最適者はいない！と農家の自衛団の結成に至った。

農家ハンターとは？ 5W1H

災害から地域を守る消防団のように 獣害から地域と畑を守る若手農家の活動

Who 若手農家が



What イノシシ対策



When 3年前から



Where 地元で



How ITを使って



Why 地域を守る



消防団のように地域を守る活動



クマモト☆
農家ハンター➡



理念

地域と畑を守る活動

- ・ 基本から勉強する（研究者＆猟師に学ぶ）
- ・ 一次情報として経験を伝える
- ・ 農業と両立できるようにすること

農家ハンターをこんな会にしていきたい 2017

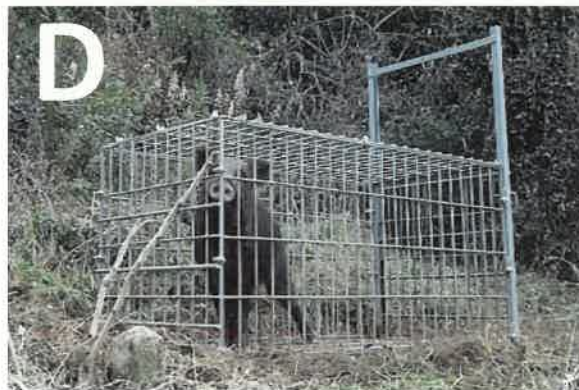
- ・ イノシシ対策の**情報と人が集まり**、発信するハブにしたい
- ・ 農家の規模、品目、エリアを超えた有志のネットワークにしたい
- ・ **官民あげて安心して応援できる**、きちんとした集まりにしたい
- ・ 強制せずとも自主的に参加したくなる会にしたい
- ・ 大学、研究者とも連携した**アカデミックな内容にも挑戦**したい
- ・ 補助金に頼らず自由に、自走、**継続できる仕組み**を作りたい
- ・ **他の県等でも真似できる**ような仕組み作りと情報公開をする

みんな農家で現場でのプレーヤー

学ぶ → 環境管理 → 囲う → 餌付けストップ → 捕獲



現場で試す みんなで試す とことん試す



農家ハンターのイノ★ベーション



農家ハンターのイノ★ベーション

農家メンバー122人 (2019年9月時点)



活動への理解と応援

応援団

農水省

鳥獣対策交付金のご紹介、ジビエ用解体加工所の支援、ジビエ消費拡大PR等

環境省

野生動物の調査データの開示と共有、狩猟試験の開催、生態調査の連携等

県、市町村

県庁むらづくり課、ジビエコンソーシアム、ジビエの講習会、市被害防止協議会等

大学、研究

地域の問題となる研究課題の対象に。IT、生態研究、アンケート調査等。

協力企業

AIによる画像分析、低コスト箱罠、メーカー商品の共同実証や研究など

農家ハンター活動の特徴

狩猟ではなく、自衛目的の駆除活動



活動は通年

イノシシの捕獲方法

守りの捕獲 **箱罠猟**

~~**鉄砲猟**~~

【長所】 **多頭捕獲が出来る** 安全性が高い
 搬出時間が短い ⇒ **ジビエ活用に最適**



箱罠は簡単ではない

ただ置いても捕獲できない

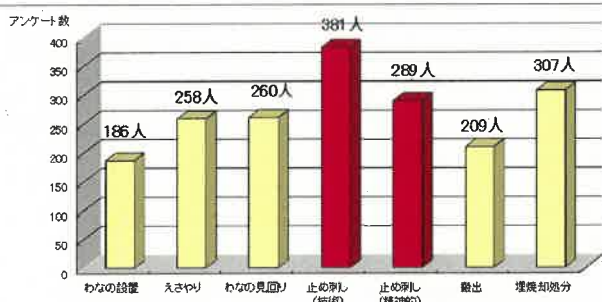


私たちの失敗事例
習うことの大切さ



精神的負担を減らしジビエにするための処理

獲れたあと、どうするか？



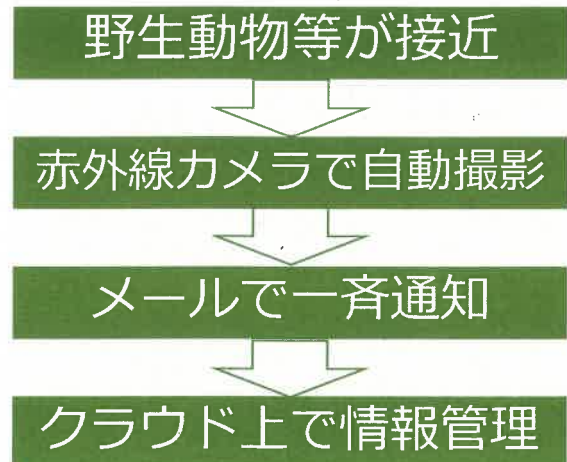
捕獲作業で従事者が負担に感じている作業

ジビエ活用に最適な
電気ショック×放血処理



【初心者向け】いつ獲れたか 全部獲れたか

写真で見える ファームキャプチャー
2017年4月サービス開始 10台導入済み



仲間との「見える化」がモチベーションに

「IoTカメラで見える化」

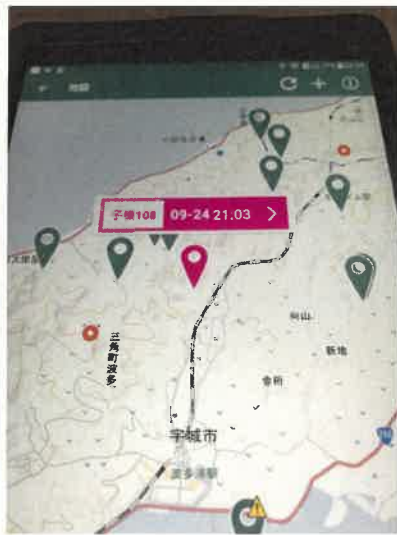
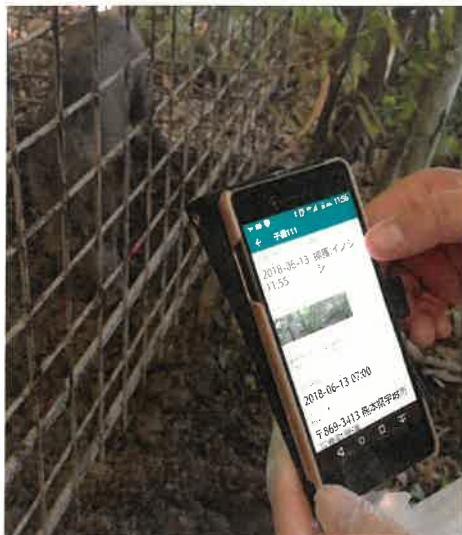


【中上級者向け】誰がどこで獲ったか トレーサブルに

低コスト×広範囲

「オリワナシステム」

2018年サービス開始（20基導入済み） 宇城市も100基導入済み



使用して分かった長所
新無線帯で通信費も機器（一基4万円弱）も安い。GPS対応で捕獲歴や申請の不正防止に効果がある。

私たちが思う短所
写真がなく罠が発動した時のみ通知するので、自力で捕獲できるようになったハンター向けかも。

【九州農政局×農家ハンター】の共同開発

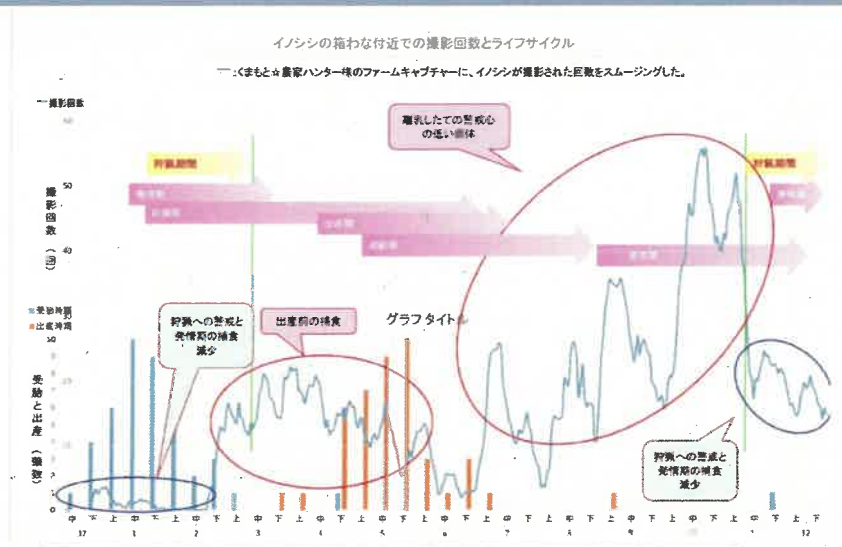
シンプル＆低コスト 「オリジナル通知機」



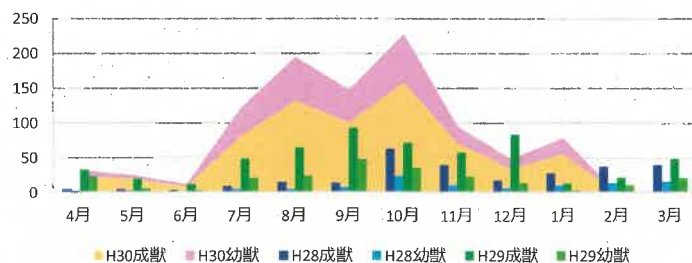
本機の長所
コストが安く（原価が1万円弱）多数の導入がしやすい。ガラケーにも発信することができるので高齢猟師にも

大変だったこと
電波状況等で発信が不安定だったこと。導入するためには多数、多環境での実証と製品化の詰めが必要であった。

データを蓄積し、それを用いた対策と検証



捕獲頭数にしめる幼獣（ウリボウ）の割合



対策の「見える化」クラウドマップの開発中

農家ハンター×R社×E社

